

外国人支援のためのネットワーキング—複言語サポーターの語りから
 NETWORKING FOR FOREIGNER'S SUPPORT: AN INTERVIEW SURVEY

徳井厚子, 信州大学
 Atsuko Tokui, Shinshu University

1. はじめに

本研究は、地域における外国籍住民の支援のためのネットワーキングのために必要なことは何かについて複言語サポーター（外国にルーツを持ち、文脈に応じて複数の言語を駆使しながら地域や学校で外国人に支援を行っている者）へのインタビューを考察するとともに、ネットワーキングの意味を再考する。

当研究では、「ネットワーキング」という言葉を、野山（2003）にもとづき、「地域における、何等かの機関、団体、関連領域の人たちがある共通意識のもと偶然にせよ必然にせよ有機的につながっている状態」とし、「そのつながりがより動的に機能しているイメージ」と捉えて用いる。本研究では、この「ネットワーキング」の定義にもとづいた上で、静態的なイメージではなく、常にネットワークをつむぎ直し、創りだしていくという動的なイメージとして捉えていくところに意味をもたせたいと考える。

2. 研究方法

当研究では、地域における外国籍住民の支援を行っている特に外国人コミュニティのリーダー的な存在である二人の複言語サポーターに対し、インタビューを行った。インタビューは1対1で行い、一人約1時間～1時間半かけて行った。

今回インタビューを行った2人のうちの一人Aさんは、フィリピン人であり、フィリピン人コミュニティのリーダー的な存在である。自身も長年外国人のサポーターとして外国人の生活相談に携わっている。もう一人のBさんは、ブラジル人であり、ブラジル人コミュニティのリーダー的な存在である。長年外国人サポーターとして外国人の生活相談に携わっている。

3. 分析結果

インタビューの分析結果は以下の通りである。

1) ネットワーキングにおける自立、協力の必要性についての語り

自分の責任で、自分で動く。協力し合う。助け合いができています

この語りは、ネットワーキングにおいて重要なこととして、頼り合う関係ではなく、自己責任を持ち、自立する関係が重要であることが重要であることを語っている。その上で協力し合うことの大切さを述べている。

ともすれば、頼り合う関係になりがちであるが、まず自立した個が基本となりネットワーキングが構築されるということの重要性について述べている。

2) 日常のネットワーキングの重要性についての語り

日常のネットワーキングの重要性についての語りが以下のように見られた。

助けが必要になってから行くのではなく、すぐに行くことが大切。そのためには、関係ができていること、ふだんのネットワークが大切

緊急時や災害時など、助けが必要な際には、ネットワーキングは重要な役割を果たすが、この語りは、このような事態の際、ふだんのネットワーキングができていることがまず重要であると語っている。特に外国籍住民にとっては、言葉が不自由な人が多いだけに、災害時の情報伝達等困難をきたすことが多い。ふだんの顔の見えるネットワーキングができているならば、災害時にもそのネットワーキングを活かし、迅速な解決にむすびつけることが可能になるだろう。

3) コミュニティの人たちの自立や意欲のサポートの重要性に関する語り

「フィリピンの人たちが自立できるようにしている」という語りが見られた。最終的にコミュニティの人の自立がネットワーキングの目的となっていると捉えている。また、以下はコミュニティの人たちの意欲のサポートに関する語りである。

フィリピンコミュニティでは、教会の活動、お祭り、勉強会など仕事に結びつく講座、例えば介護や英語の先生の資格の講座やスキルアップなどがある。意欲があり日本の社会に貢献できる心がある。こういう人たちをサポートしたい。

コミュニティの人たちの社会貢献をしたいという気持ちや意欲をサポートすることがコミュニティにとって重要と捉えていることがいえる。

4) ネットワーキングが機能するために外国人相談員のキーパーソン、日本人コワーーカーに必要な資質についての語り

ネットワーキングが機能するためには、キーパーソンが重要な役割を果たす。語りの中に、ネットワーキングが機能するために外国人相談員のキーパーソン、日本人コワーーカーに必要な資質について以下の語りがみられた。

<外国人相談員のキーパーソンに必要な資質について>

a オープンマインド

まず重要な資質として、「地域の人たちに愛されている。人がよってきやすい」と述べているが、さらに、「よってきやすい」を具体的に「困っている人がいれば、心を開く」と述べている。オープンマインド、寛容性が外国人相談員のキーパーソンにとって必要であると捉えている。

b 現場と行政の橋渡し

「社会に貢献したいなどいろいろな声があるが、声が届いていない。」「キーパーソンが自分の地域に連絡してくれる」「キーパーソンが現場のいろいろな声を

聞いて届ける。例えば地域で起きている問題や希望、何ができるかといったことなど」

個人レベルで心情的なレベルの資質であるが、地域の声を行政に届けるというのは組織レベルで行動レベルの資質といえる。単に相手の声を聞くだけではなく、組織につなげるといふ実行力が重要であると捉えているといえる。行政と現場の「橋渡し」を、ネットワーキングが機能するためのキーパーソンの重要な役割として捉えている。

d 権威をみせない態度

「上から目線にならない」という語りが見られた。外国籍住民を支援する場合、権威をみせるのではなく、相手と対等の目線で接する態度が大切であると捉えている。

<日本人コーワーカーに必要な資質について>

a 外国人相談員についての理解

自分にとってやりやすい人は、ちゃんと外国人相談員のことを認める。それぞれの国のニーズが違う、国民性が違うことなど外国人相談員の活動を認めて励ましてくれる人。必要と思えば理解してくれる人

仕事相手の外国人相談員の存在を認め、理解することの重要性についての語りである。まず相手を理解し認めることがネットワーキングを構築するために必要な資質と捉えていると考えられる。

b 現場の重視

(日本人コーワーカーは) コミュニティの様子をみてほしい。現場をみてほしい。現場に行けば、費用も含めて理解してもらえる。

現場にまず足を運び、現場の状況を把握する行動力の必要性についての語りである。まず現場を理解することがネットワーキング構築のために必要な資質と捉えている。

5) 長期的なネットワーキングの必要性

ネットワーキングを長期的に捉えることの大切さについての語りが見られた。

<次世代のキーパーソンの育成>

キーパーソンは、次のキーパーソンを育成しなければいけない。自分よりできる人はまわりには絶対いる。その人を磨いて育てることが大切。その人を信頼できるから自分も任せることができて楽になる。

次世代のキーパーソンの育成についての語りである。人を育てていくことがネットワーキングに必要であると捉えている。さらに、「年を重ねるとともにネッ

トワークを重ねる」と述べている。ネットワークを一直線に捉えるのではなく、その線を厚く重ねていくという築き方の大切さについて述べている。

4. まとめ—ネットワークの意味の再構築—

当報告では、外国人の相談等を行っている複言語サポーターの語りを分析し、ネットワークのために何か必要かについて複言語サポーターがどのように捉えているかを明らかにしようとしたものである。

複言語サポーターの語りからは、ネットワークにおける自立、協力の必要性、日常のネットワークの重要性、コミュニティの人たちの自立や意欲のサポートの重要性が挙げられた。また、ネットワークが機能するために外国人相談員のキーパーソンに必要な資質として、オープンマインド、現場と行政の橋渡し、権威をみせない態度が挙げられた。日本人コワーカーに必要な資質としては、外国人相談員についての理解、現場の理解が挙げられた。これらの資質についてはさらに検討が必要であると考えられる。

また、「次世代のキーパーソンの育成」のように長期的にネットワークを構築していくことの重要性、「年とともにネットワークを重ねる」のように、ネットワークを複層的に捉えていくことの重要性についての語りが見られた。この語りは、ネットワークの意味を新たに再構築する必要があることを示唆しているといえる。

従来のネットワークは、空間的なレベルで捉え、個々間のつながりを単線的に捉える傾向があるが、今後はネットワークを空間的なレベルだけではなく時間的なレベルでも捉え直し、さらに個々間のつながりを複層的に捉えていく必要があるといえる。このように捉え直すことによって持続可能なネットワークの構築が可能となるだろう。

当研究は、2014-16年度科学研究費基盤研究（C）「複言語サポーターの複言語・複文化能力に関する研究」（代表 徳井厚子）JP40225751 の研究成果の一部である。

参考文献

- 徳井厚子（2014）「複言語サポーターはどのように複数の言語を使用しているのか」『多言語多文化・実践と研究』Vol.6. 東京外国語大学多言語多文化研究教育センター
- 野山広（2003）「地域ネットワークと異文化間教育」『異文化間教育』18、4-13